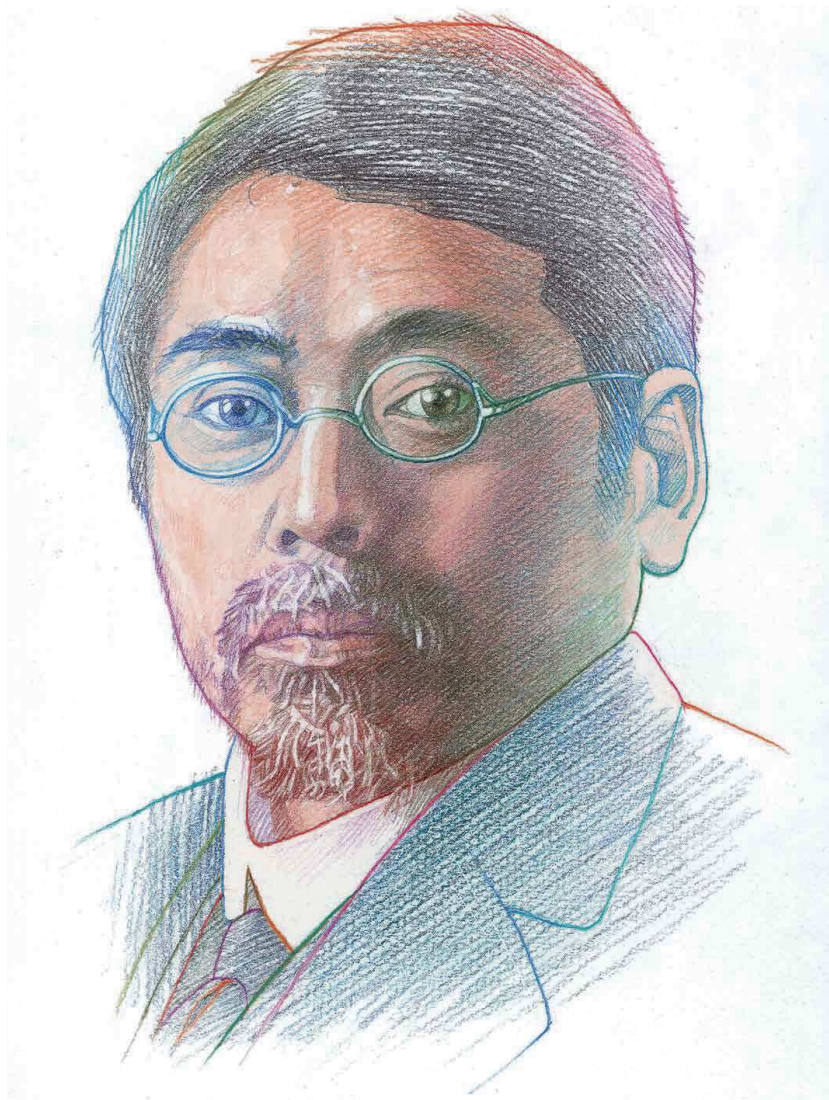


自然と人生の悩める預言者

とく とみ ろ か

徳富蘆花

Tokutomi Roka



明治元年(1868)～昭和2年(1927)

みな また
水俣市生まれ、熊本市育ち

小説家

おお え ぎ じゅく
大江義塾や同志社で学び、上京後、兄・蘇峰の民友社で文筆生活を送る。
家族制度の不合理的に鋭い批判を加えた小説『ほととぎす不如帰』はベストセラーとなり、続いて発表された『自然と人生』『おもいで思出の記』で国民的作家となった。作品にはキリスト教の影響も見られ、時代の苦しみや悲しみを率先そつ せんして吸収し民衆に語りかけた。『青山白雲』『かい じん灰燼』『竹崎順子』など熊本の郷土色が投影されている作品も多い。